

【平成23年6月定例会（第2回）】

開会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、平成23年6月市川三郷町議会第2回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の中、全員のご出席を賜りここに定例会が開会できますことに、厚くお礼を申し上げます。

また、平素町行政の推進にご尽力、ご協力をいただいておりますことに、併せて感謝を申し上げます。

去る3月定例会中の3月11日、午後2時46分発災の地震名、東北地方太平洋沖地震、災害名、東日本大震災は、発災からすでに3カ月近く経ちますが、亡くなられた方1万5千人以上、行方の分からない方8千人以上、避難を余儀なくされている方9万8千人以上の巨大地震、大津波、原子力発電事故の3重の苦難は、まさに国難であります。

亡くなられた方々のご冥福と、被災されました多くの方々へのお見舞いを心よりお祈り申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

さて、行政推進に関する5点について申し上げます。

まずはじめに集中改革プランについてであります。第1期集中改革プランは、平成18年度から平成21年度までの4年間であり、目標額4億8,698万4千円であります。効果額は7億7,957万5千円、目標達成率は160%、目標額より2億9,259万1千円の削減増であります。第2期集中改革プランは、平成23年度から平成25年度までの3年間とし、目標額は1億4,025万3千円あります。

次に、地方交付税交付金についてであります。合併により合併算定換えと、一般算定の交付額の比較では、合併算定換えは合併年度から10年については合併がなかったものと仮定して、毎年度旧3町ごとに算定した、普通交付税の全額を保障し、その後の5年間で割り増し額を段階的に縮減していく特例項目であります。平成28年度から毎年度90%、70%、50%、30%、10%と減額され、平成33年度からはゼロとなり、対平成28年度比で8億円の減額となります。

次に、平成22年度一般会計決算の概算ですが、おおむね10億円の黒字となります。うち2億円を財政調整基金に、1億円を減債基金に積み立てます。このほかの基金積み立ては、まごころ基金に630万円、碑林公園石造物購入基金に100万円、合計で730万円となります。

住民生活に光をそそぐ基金に1,390万円あります。

平成23年度の繰越金は形式収支で6億9,494万円、うち繰越事業に充当すべき財源3,260万円を除きますと、純繰越金、実質収支では6億6,234万円となります。

次に、平成22年度末の地方債、借金でございますが、残高と基金残高についてであります。地方債残高は264億4,400万円から、255億700万円となり、9億3,

700万円減りました。

基金残高は25億9,976万円から29億2,260万円となり、3億2,284万円増えました。プラスマイナス12億5,900万円と、財政健全化に前進したことになります。

最後に、自治体力、これは行政力についてであります。東京法令出版牧瀬稔著「選ばれる自治体の条件」では、住民は自分の選好を満足させてくれる自治体には、住むことを望む。そして自分の選好を満たしてくれない場合は、その自治体から住民は離れていくと示唆しております。住民福祉の増進のための調査研究、自治体政策開発における調査研究、職員力によるランドデザインなど、しっかりとした確かな自治体力、行政力が求められていると考えます。自治体力、行政力の差が、これからの自治体の優劣の差になります。全体の奉仕者として、職員一人ひとりの力量が問われることになります。

本日、ご提案申し上げます案件は、専決処分承認6件、条例改正1件、補正予算9件の、合わせて16案件であります。

それではこれより報告事項の説明を申し上げます。

(以下省略)